

# かながわの交通

2024  
7月号

交通安全年間スローガン受賞作品(内閣総理大臣賞)  
一般部門:歩行者・自転車利用者に呼びかけるもの

## 身につけよう 交通ルールと ヘルメット



夏の交通事故防止運動ポスター



### 道路横断には気をつけて!

高齢歩行者の事故が増えています。

**油断大敵!** 運転者も歩行者もルールを守って  
交通事故防止に努めましょう!

**歩行者  
事故  
多発!**

◎県内の交通事故発生概況(令和6年6月末現在) ◎県人口・運転免許人口

年別	区分	発生件数	死者数	負傷者数		総数	男	女
令和6年		10,053	51	11,643	県人口	9,231,023	4,575,207	4,655,816
令和5年		10,396	58	12,220	免許人口	5,682,945	3,214,241	2,468,704
増減数		-343	-7	-577	割合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.8人に1人
増減率		-3.3%	-12.1%	-4.7%				



ホームページ

(県人口は令和6年6月1日、免許人口は令和6年5月末現在)

## 第15回 評議員会・第44回 理事会の開催について

6月20日(木)県協会会館において第15回 評議員会及び第44回 理事会が開催されました。

評議員会では石坂会長をはじめ理事、監事、評議員 51名が出席された中で「令和5年度事業報告」「令和5年度 決算報告」及び「人事案件」について審議され、いずれも原案通り承認、議決されました。

また、引き続き行われた理事会でも「人事案件」について審議され、原案通り承認、議決されました。

写真左：評議員会における  
石坂会長挨拶

写真右：評議員会における  
倉林交通部長挨拶



## 夏の交通事故防止運動の実施について

- **期間** 令和6年7月11日(木)～7月20日(土)の10日間
- **目的** 夏の行楽期を迎えるこの時期は、人流や交通量が増加することに加え、解放感による悪質な運転などの増加が懸念されることから、県民一人ひとりが交通安全について考え、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組むことを通じて、交通事故防止の徹底を図ります。
- **スローガン** **ぎりぎりの 時間と車間が 事故を呼ぶ**
- **運動の重点** 1 安全運転意識の向上 2 妨害運転・飲酒運転の根絶  
3 こどもや高齢者を始めとする歩行者の安全確保

## ～二輪車交通事故防止・暴走族追放強化月間の実施結果～

6月中「運転にゆとり やさしさ 思いやり」「暴走はしない させない ゆるさない!」をスローガンに、二輪車交通事故防止強化月間及び暴走族追放強化月間が行われました。



津久井交通安全協会では、昨年に引き続き二輪ライダーの集まる鳥居原ふれあいの館周辺において「プロテクターをつけるニャー!」を合言葉に、各種プロテクターを装着する重要性を訴えた二輪車交通安全キャンペーンを実施しました。

6月末現在の二輪車関係死者数の構成率は、昨年34.6%でしたが、今年は35.3%で増加しています。

◎ 県内の二輪車関連交通事故発生状況 (速報値)

	6 月 末		
	発生件数	死者数	負傷者数
令和6年	2,768	18	2,480
増減数	-108	+1	-98
構成率	27.5%	35.3%	21.3%

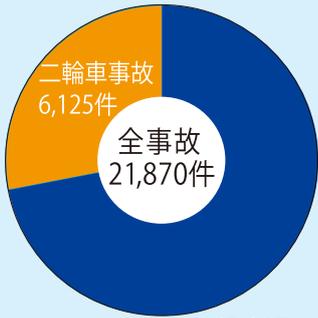
☆ 県内の暴走族の実態 (令和5年末)

暴走族		旧車會	
グループ数	19 グループ	グループ数	35 グループ
構成員 (共同危険型)	653 人	構成員	392 人
構成員 (違法競走型)	128 人		
合計	781 人		

※ 構成率は全交通事故件数に占める二輪車関連交通事故の割合

☆ **地域における様々な取組を通じて暴走族追放の気運を高めましょう** ☆

# 令和5年中の神奈川県内二輪車事故の特徴

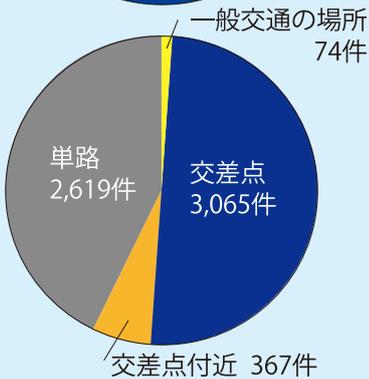


## ◆ 全事故に占める二輪車事故の件数

○神奈川県は全事故件数に占める二輪車事故の構成率が**28.0%と高い!**

※ 令和5年中二輪乗車中事故 全国構成率19%

※ 二輪車事故件数は、特定小型原付自転車を含みます。



## ◆ 道路形状等分類別衝突地点

○**交差点**における**事故**が全体の**50%**を占める!

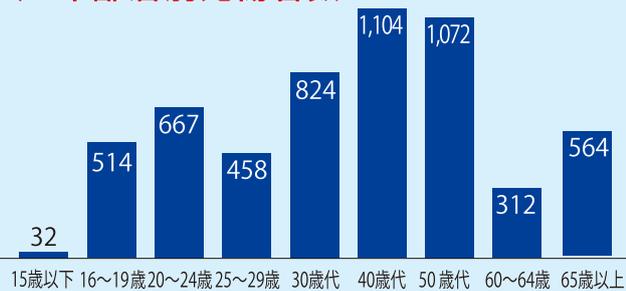
☆ 二輪車は四輪車と見比べた場合、

**遠く小さく見える**傾向があります。

☆ 二輪車で、**交差点を通過**する際、

**対向車、右折車**に十分**注意**しましょう。

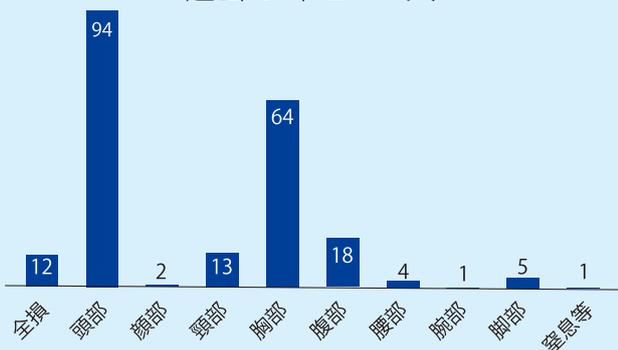
## ◆ 年齢層別死傷者数



○二輪車乗車中の**負傷者**は20歳代より**40歳代、50歳代**が多い。

☆バイクに乗って出かけたなら、怪我なく無事に家族の元に帰ることを考えましょう。

## ◆ 二輪車乗車中死者の主要損傷部位 過去5年214人



○二輪車乗車中の**死亡者**の主要損傷部位は**頭部・胸部**が多い。

☆ **あごひもは確実に締めましょう!**

あごひもの締め方が緩いと衝突の衝撃でヘルメットが脱げてしまいます。

※胸のプロテクターをつけましょう。グローブ、ブーツも忘れずに。

## ◆ 二輪車乗車中負傷者の主要損傷部位 過去5年27,616人



○二輪車乗車中の**負傷者**の主要損傷部位は**脚部・腕部**が多い。

## ～県内では二輪車が関係する事故が多く発生しています～

令和5年中の事故を分析したところ、神奈川県内の二輪車事故の傾向は令和4年中と比べ同じ傾向を示しています。交通事故は決して人ごとではありません。速度を抑えて防衛運転に徹してください。

**「注意一秒 怪我一生」**

## 第52回 交通安全こども自転車神奈川県大会の開催

自転車の安全走行に関する知識と技能を競う大会  
県内4地区から小学生9チーム36人が参加



6月22日(土)神奈川県高座郡寒川町にある寒川総合体育館において「第52回 交通安全こども自転車神奈川県大会」が開催されました。

本大会では「交通規制」「道路標識・標示」等、自転車の安全な乗り方に必要な法規が出題される学科テスト、4人一組のチームで「安全走行・技能走行」を競う「実技テスト」が行われ、開会式では神奈川県警察本部倉林交通部長、公益財団法人神奈川県交通安全協会小島専務理事から挨拶があり、神奈川県交通安全母の会連合会五反田会長の合図で競技が開始されました。



倉林交通部長挨拶



小島専務理事挨拶



〔会場受付の様子〕



〔学科テストの様子〕



〔開会式の様子〕



〔五反田会長の合図で競技開始〕



〔安全走行テストの様子〕



〔技能走行テストの様子〕

優勝

横浜市立  
小田小学校



第2位 厚木市立 清水小学校 A チーム



第3位 横浜市立 八景小学校

優勝は横浜市立小田小学校チームで二連覇を達成。

選手には賞状、優勝旗、団体楯、個人楯、個人メダルが授与され、8月7日(水)に東京ビックサイトにおいて行われる「第56回 交通安全子ども自転車全国大会」の出場旗が小島専務理事から手渡されました。



〔全国大会出場旗授与の様子〕



〔優勝旗の授与〕



〔交通総務課長講評〕



〔第二交通機動隊のスカイライン GTR・白バイも展示されました〕

大会では、どの選手も真剣に競技に取り組み、観客席からは選手に惜しみない拍手が送られていました。全国大会の結果は9月号でお知らせいたします。

横浜市立小田小学校の選手、全国制覇を目指し頑張ろう！

## 交通事故の悲劇に学ぶ 126

### ●「当たり前」を「当たり前」 E.M 会社員(20代)

それはある年の9月「敬老の日」のことです。私はいつものように朝6時に家を出ました。

次の日が休日となり、その日は早く帰宅できる予定でしたが、急に欠員が生じたため、午後8時頃まで仕事をして、それから自宅に向かいました。

祝日ということで道路はいつもより空いていました。そのため疲れと安心感から注意力が欠けてしまい、漫然と前車に追従する形で走行していました。

会社を出て40分くらい走ると、右折レーンのある片側四車線の交差点に差し掛かりました。

交差点を無理に通過しようと加速すると、前方に右折を始める車が見えました。

私は危険を感じ、急ブレーキをかけたのですが、時速100キロメートルは出ていたため、間に合わず、右折車両の側面に衝突してしまいました。

「ドーン」という大きな衝突音と激しい衝撃があり、相手の車両は衝突地点から40メートルほど飛ばされ、私の車も3回転半してから、電柱にぶつかって止まりました。

事故直後、すぐ周りにいた人達が110番通報してくれたようで、間もなく到着した救急隊に被害者と私は救護されましたが、被害者の救護にあたった救急隊の方が「二人とも意識がない」と叫んでいたため、大変な事故を起こしたと思いました。

その後、被害者の方2人が先に病院に運ばれ、私はほぼ無傷でしたが、救急隊の方が「大きな事故だから念のため」と言って、病院に搬送してください、検査を受けました。

病院で検査を受けていると、「被害者の方2人が亡くなられた」と医師と看護師が話しているのが聞こえてきました。

私は、その言葉を信じることができず、「助かってほしい」という気持ちしかありませんでした。

しかし、私の願いもむなしく、翌朝のテレビニュースで被害者の方お2人が亡くなったことを知り、頭が真っ白になりました。

警察を通じて、御遺族に謝罪をしたいとお願いしましたが、「今会おうと、あなたに何をするかわからない」と言って断られました。

その後も、保険会社や弁護士を通じて謝罪し

たいとお願いをしましたが、すべて断られました。

私は、事件の翌日から自分の犯した罪の大きさにショックを受け、部屋から出ることができませんでした。

本来ならば御遺族のもとに駆け付け、土下座して謝罪するべきところですが、何もできませんでした。

被害者のお2人は定年を過ぎ、第二の人生を楽しむため、あれこれと計画を立てていたようです。また、御遺族も被害者と過ごす日々を楽しみにしていたと思います。

私の不注意により、一瞬にして被害者の未来とご家族の楽しい団欒の場を奪ってしまいました。

裁判では、過失運転致死罪により、禁固2年4ヶ月の実刑判決をうけました。

私は車を運転することが日常生活の一部となり、しだいに運転に対する緊張感が薄れていたように思います。

そのため、漫然とした運転となり、右折車に対する注意が欠けていました。

運転に必要な「交通ルールを守る」という認識に欠けていたことが、今回の事件を招いた最大の原因です。そのため被害者お2人の尊い命を奪ってしまいました。

私は現在受刑生活の中で、自分と向き合い、自分を良い方向に変えていくため反省の日々を過ごしています。そして、今後は御遺族の心痛や悲しみ、やり場のない憤りを理解するよう努めていきます。

そして、何が償いなのかを考え、一生を掛けて謝罪と償いを続けて行きたいと思っています。

今の私には何が「償い」なのか、まだ十分理解できていませんが、「当たり前のことを当たり前に行う」ことで、私の誠意が御遺族に伝わればと思っています。

最後に大事件を起こした私が、皆さんに言える立場ではありませんが、読者の皆さんには「ハンドルを握ったら緊張感を持って、慎重な運転をお願いしたい」と思います。

～(一財)東京都交通安全協会編集発行

「贖いの日々(第58集)」から～

この人

219



青葉交通安全協会  
会長

く どう あきら  
工藤 明さん



今回は、青葉交通安全協会会長の工藤明さんを紹介します。

工藤会長は、昭和16年生まれで、出身は、茨城県です。昭和46年に交通安全協会役員になり、その後交通安全協会支部班長、支部会計、副支部長、支部長を歴任され、平成18年に会長に就任され現在に至っております。自治会連合会長を始め法人会副会長や他の団体の役職を兼任されるなど、多忙な日々を送っております。

令和2年は、全世界にまん延した新型コロナウイルス感染予防対策に伴い、緊急対策が実施される中、各種交通安全活動に参加した際『三密』を避けるため、ソーシャルディスタンスを守り、マスク、手袋等の時勢にあった感染予防対策を行い、啓発物品の配布に努めました。

また、日頃から「仁愛尊敬」を座右の銘として「聞く・伝える・学ぶ」をモットーに関係機関・団体との「和」を大事にしながら、交通事故防止と交通安全を目標にご尽力し、特に、「飲酒運転根絶」と「交通死亡事故ゼロ」の対策については「ハンドル

キーパー運動」や各季の運動において、キャンペーン等の活動を強力に推進して、会長以下120名は一丸となって各種施策に取り組んでおります。

一方、近年少子化や高齢者の運転免許返納が増加して更新者が減少している現状に、会長自ら先頭に立ち、より多くの地域の方が会員になって交通安全活動に協力していただくために、あらゆる機会を通じて交通安全に対する啓蒙活動の重要性を唱えています。

また、窓口業務における会員勧誘においても日頃の交通安全活動を紹介するなど積極的に働き掛け、新たな会員を獲得していくよう活動しています。会長が陣頭指揮を執り、あらゆる施策をとりながら協会事務長・職員が一丸となって毎日200人を超える来訪者に働き掛け、新たな会員獲得に尽力したいと抱負を語っております。

(取材協力：青葉交通安全協会)

こんにちは「相模原南交通安全協会」です

相模原南交通安全協会は、昭和49年8月、相模原市の人口が30万人を超え、今後も人口が増加することが予想されたことから、市内二か所目の警察署として相模原南警察署が新設されたことにより相模原交通安全協会から分離して発足しました。

相模原南交通安全協会は、相模原市南区を受け持ちとする相模原南警察署の管内が担当区域で、安全協会の事務所前は三浦半島から東京都八王子市まで神奈川県内を南北に走る大動脈である国道16号線に面しており、鶴野森や古淵などの渋滞の名所となっている交差点もあります。

発足当初は事務所はなく、免許申請に関わる事務を警察署の一部を借りて行い、会員数25,000人、8支部でしたが、現在では会員数は当初の倍近い49,000人、支部数も24支部まで増えて活動しています。

相模原市南区は、県内でも交通事故の多い地域で、特徴としては、常に幹線道路が渋滞しており、裏道も道幅が狭く歩車道の分離されている道路が少なく、バス路線の整備も不十分で割と平坦な

地形で自転車の利用者が多いことから、自転車が当事者となる事故が多く発生しています。

自転車や高齢者、子供たちが当事者となる事故は、その大半が管内居住者であることから、管内居住者の安全意識を向上させることが必要であり、当協会では、交通事故多発地点や学校周辺や通学路等での指導誘導、のぼり旗の掲出を行うとともに警察や関連団体等と協力して、各期の安全運動期間中等のキャンペーンや交通広報等を実施しています。

近年はコロナ禍の影響で目立った活動ができない状況ではありますが、区内から悲惨な事故を一件でも減らすため、今後も交通安全活動に積極的に取り組んでまいります。(山下 記)



## 地区交通安全協会の活動紹介



**伊勢佐木** 伊勢佐木町モールにおける  
春の全国交通安全運動キャンペーン



**港南** 港南公会堂前における  
春の全国交通安全運動キャンペーン



**大船** 警察署前における  
春の全国交通安全運動キャンペーン



**田浦** 京急追浜駅前における  
春の全国交通安全運動キャンペーン



**幸** ラゾーナにおける  
春の全国交通安全運動キャンペーン



**大磯地区** 警察署前における  
春の全国交通安全運動キャンペーン



**鶴見** JR 鶴見駅東口における  
春の全国交通安全運動キャンペーン



**葉山町** 警察署前における  
春の全国交通安全運動キャンペーン

交通安全活動

### 賛助会員の紹介

このコーナーでは(公財)神奈川県交通安全協会の交通安全活動に賛同し、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次で紹介しています(敬称略)。

- IKS インベストメント株式会社 ————— 川崎市川崎区
- 横浜ビルシステム株式会社 ————— 横浜市中区
- T&T 株式会社 車買取半次郎 ————— 横浜市保土ヶ谷区

### 賛助会員入会のお願い

公益財団法人神奈川県交通安全協会では、交通事故のない安全で安心な交通社会を実現するため様々な交通安全事業を行っております。交通事故防止活動に賛同していただける「賛助会員」としての入会をお願いいたします。